

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

近代日本の宗教と文化

Modern Japan's Religion and Culture

2. 研究代表者氏名

高木 博志

TAKAGI, Hiroshi

3. 研究期間

2022年4月-2025年3月(2年目)

4. 研究目的

近代日本の宗教と文化を考えたい。本研究で扱う宗教とは、仏教、キリスト教、国家神道、教派神道（金光教・黒住教・天理教・大本教）、民俗世界の信仰などである。そして文化とは、美術・工芸、音楽、文学、映画・芸能などにとどまらず、それらが政治、社会、教育、生活とも交差する、広義の「文化」とする。その上で、宗教と文化の問題を深めたい。たとえば「賊軍」士族の賛美歌、国家神道と教育儀礼や民俗文化、白樺派や柳宗悦やブレイクとキリスト教、京都画壇と本願寺など、課題は豊富である。また市井の庶民の信仰に迫るためにも、民衆史の方法や、宗教における史料論という課題を問いたい。最後に近代天皇制にも「宗教と文化」から迫りたい。

I wish to reflect on modern Japan's religion and culture. "Religion" here refers to Buddhism, Christianity, state Shinto, sect Shinto (Konkōkyō, Kurozumikyō, Tenrikyō, Ōmotokyō), and the world of popular beliefs. "Culture" refers not merely to arts, crafts, music, literature, film, and entertainment, but to their engagement with politics, society, education and life. This is culture in the broadest sense. And I hope to complicate the problem of religion and culture. The issues here are many and diverse: hymns by samurai on the losing side in the civil war; state Shinto and educational ceremonies and folk culture; the Shirakaba school, Yanagi Sōetsu, Blake and Christianity; and the world of Kyoto painting and Honganji inter alia. In order to approach the beliefs of the people at large, I adopt the methods of people's history and of religious history. Finally, I plan to use the "religion and culture" angle to get at the modern emperor system.

5. 本年度の研究実施状況

2023年2月刊行の『人文学報』特集：近代京都と文化（10本の論考）に続き、共同研究報告書・高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（同年8月、思文閣出版、21本論文）として上梓した（詳細は論文一覧）。5月に畝傍山・神武陵・洞部落跡・檀原神宮、9月に茨木キリシタン遺跡、3月に金光教本部のフィールドワークをおこなうなど11回の共同研究班を開催した。宗教と文化をめぐって、キリシタン、映画メディア、天皇制、文化財、金光教聖地、教育勅語、仙台の民俗行事、皇太子外遊などの報告を重ねて、共同研究を深めている。共同研究成果については、『近代日本の宗教と文化（仮題）』（思文閣出版、2025年度）に向けて、準備している。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-04-01 近代日本と宗教と文化 近現代の神社と世襲的な神職と地域の正月飾りの文化史 発表者 佐藤雅也 仙台市歴史民俗資料館
- 2023-05-07 近代日本と宗教と文化 畝傍山・神武陵・洞部落跡・檀原神宮一幕末から皇紀2600年事業までのフィールドワーク 発表者 山本信彦
- 2023-06-17 近代日本と宗教と文化 明治大正期の日本映画と皇室のイメージ戦略 発表者 紙屋牧子 玉川大学
- 2023-07-23 近代日本と宗教と文化 杉孫七郎と寺社・宮内省一泉涌寺を通して― 発表者 齊藤紅葉 国土館大学
- 2023-09-02 近代日本と宗教と文化 茨木市立文化財資料館寄託 キリシタン遺物熟覧 および千提寺・下音羽フィールドワーク 発表者 桑野梓 茨木市立文化財資料館
- 2023-10-07 近代日本と宗教と文化 文化財鑑賞と京都・奈良観光の社会史 発表者 菅沼明正 九州産業大学
- 2023-11-05 近代日本と宗教と文化 大正期の映画と民衆宗教 発表者 富田美香 国立映画アーカイブ 日本における教育・宣伝映画の歩みと宗教―無声映画の時代― 発表者 兒山陽子 金光図書館 大正から昭和初期の金光教における映画制作と上映活動 司会 高木博志 京都大学人文科学研究所
- 2023-12-23 近代日本と宗教と文化 教育勅語普及団体・一徳会の基礎的研究 発表者 谷川穰 文学研究科 祇園祭山鉦のまつり方の変化（近世中後期を中心に） 発表者 村上忠喜 京都産業大学
- 2024-01-20 近代日本と宗教と文化 日本左翼運動の政治文化と追悼儀礼：1920年代後期から30年代初期までの「労農葬」を中心に― 発表者 胡安美 文学研究科 敗戦後プロテスタント・キリスト教大学による農村伝道構想：同志社の農本文化事業を通して― 発表者 田中智子 教育学研究科
- 2024-02-11 近代日本と宗教と文化（人文研アカデミー「近現代天皇制を考える学術集会―「建国記念の日」に問う」） 昭和天皇の外遊（1921年）をめぐるイメージ・

ポリティクス 発表者 紙屋牧子 玉川大学 慰撫と反復：歌の〈私〉と天皇制 発表者 石井美保 「理念としての天皇」論 発表者 福家崇洋 天皇制と陵墓問題：世界遺産名称「仁徳天皇陵古墳」を問う 発表者 高木博志

2024-03-16 近代日本と宗教と文化（金光教会・金光図書館フィールドワーク） 農業集落から門前町への軌跡：明治初期の社殿建築をめぐる村落有力者と金光大神の関係を中心に 発表者 児山真生 金光図書館

7. 共同研究会に関連した公表実績

- ・高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（2023年8月、思文閣出版）
- ・2024年2月11日、人文研アカデミー「近現代天皇制を考える学術集会」への協力
- ・『京都大学における人文社会科学を中心とした融合研究の先例調査報告書』（2024年3月、京都大学学術研究展開センター人文・社会系部門）オープンアクセス。
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/287495>

8. 研究班員

所内

高木博志、福家崇洋、金智慧、林潔

学内

谷川穰(文学研究科)、田中智子(教育学研究科)、木下千花(人間環境学研究科)、駒込武(教育学研究科)

学外

並木誠士(京都工芸繊維大学美術工芸資料館)、羽賀祥二(名古屋大学)、福島栄寿(大谷大学文学部歴史学科)、齊藤紅葉(国土館大学文学部)、幡鎌一弘(天理大学文学部)、中川理(神戸女子大学)、土田真紀(同志社大学文学部)、今尾文昭(関西大学文学部)、北野裕子(龍谷大学経済学部)、本康宏史(金沢星稜大学経済学部)、北原かな子(青森中央学院大学看護学部)、國賀由美子(大谷大学文学部歴史学科)、木立雅朗(立命館大学文学部)、村上紀夫(奈良大学文学部)、岡田万里子(桜美林大学リベラルアーツ学群)、紙屋牧子(玉川大学 芸術学部)、樋浦郷子(国立歴史民俗博物館研究部)、ジョン・ブリー(国際日本文化研究センター)、青江智洋(京都府立丹後郷土資料館)、玉城玲子(向日市文化資料館)、松川綾子(奈良県立美術館)、富田 美香(国立映画アーカイブ)、児山真生(金光教佐馬地教会)、児山陽子(金光図書館)、

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	4	2	0	0	0	53	10	0	0	0
		(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(10)	(10)	(0)	(0)	(0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	3	7	0	0	0	3	37	0	0	0	22
		(4)	(0)	(0)	(0)	(2)	(25)	(0)	(0)	(0)	(15)
国立大学 (内女性)	2	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学 (内女性)	13	11	0	0	0	0	36	0	0	0	0
		(5)	(0)	(0)	(0)	(0)	(20)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	2	2	1	0	0	0	8	4	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	4	4	0	0	0	0	9	0	0	0	0
		(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(7)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関 (内女性)	2	2	0	0	0	0	11	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
その他 ※ (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	27	32	3	0	0	3	158	14	0	0	22
		(16)	(2)	(0)	(0)	(2)	(72)	(10)	(0)	(0)	(15)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	4		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	9		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月	論文名	発表者名
1	軍事史学 / 軍事史学会 編 59	1	R5.6	大岸頼好と国家改造運動	福家崇洋
2	風俗研究会編『復刻 歴代風 俗写真集』日外アソシエー ツ	1	R5.6	『歴代風俗写真集』解説	青江智洋
3	歴史研究 712	1	R5.7	明智光秀首塚の四〇〇年	村上紀夫
4	映像学 110	1	R5.8	作家主義と女性映画	木下千花
5	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 8 月所収）	1	R5.8	マキノ映画にみる京都の花 街・舞妓表象—万国博覧会 から『祇園小唄 絵日傘 第 一話 舞ひの袖』（1930 年） へ	富田美香
6	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 9 月所収）	1	R5.8	戦後日本映画における島原 —反ロマン主義的トポスと して	木下千花
7	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 10 月所収）	1	R5.8	近代京都の農民美術と民芸 —副業を奨励した二つの運 動	青江智洋
8	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 11 月所収）	1	R5.8	戦時下の新村出	福家崇洋
9	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 12 月所収）	1	R5.8	1940 年代の寿岳文章—日 本主義と民主主義	高木博志
10	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 13 月所収）	1	R5.8	歴史を演じる—祝祭とペー ジェントの近代京都	ジョン・ブ リー
11	高木博志編『近代京都と文 化：「伝統」の再構築』（思文 閣出版、2023 年 14 月所収）	1	R5.8	東本願寺と京都画壇—明治 度両堂再建における障壁画 制作の道程	國賀由美子

12	高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023年15月所収）	1	R5.8	「加賀百万石」の記憶と京都文化—近代金沢における都市イメージの形成	本康宏史
13	高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023年16月所収）	1	R5.8	「教育的都会」京都の誕生—爛熟する官立学校誘致の経験	田中智子
14	高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023年17月所収）	1	R5.8	近代京都染織業と近江商人系商店—拡大の実態と染呉服の大衆化	北野裕子
15	高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023年18月所収）	1	R5.8	小売市場の普及に見る生活文化の近代的変容	中川理
16	千枝大志編『三重の街道をゆく』風媒社	1	R5.8	イギリス人が伊勢路をゆく！	ジョン・ブリン
17	ユリイカ 55	1	R5.10	坐産介添人：妊娠映画作家・中島貞夫	木下千花
18	歴史科学 256号	1	R6.2	近代天皇制と陵墓問題：世界遺産「イコモス評価書」を読む	高木博志
19	同志社談叢 44号	1	R6.2	一八九〇年代後半の同志社尋常中学校とその生徒—岸盛辰関連史料より—	田中智子
20	京都大学文学部研究紀要 63号	1	R6.3	それは「錬成」への道だったのか—1930年代仏教日曜学校についての一考察—	谷川穰
21	両丹地方史	1	R6.3	地方史研究者と丹後郷土資料館の60年	青江智洋
22	京都学研究会編『京都を学ぶ（丹後編）』ナカニシヤ出版	1	R6.3	丹後ちりめんと暮らしの音風景	青江智洋

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際 共著
1	近代京都と文化：「伝統」の再構築	高木博志編	R5.8	思文閣出版	
2	近代天皇制と伝統文化―その再構築と創造	高木博志	R6.3	岩波書店	

12. 本年度博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

最終年度の共同研究会であるが、『近代日本の宗教と文化（仮題）』（思文閣出版、2025 年度）に向けて、研究報告を積み重ねる。12 回の共同研究会を行うが、人文科学研究所における 6 回の研究会のほか、6 月神戸映画資料館、8 月泉涌寺巡見、祇園・宮川町、9 月金沢巡見、11 月大谷大学博物館の特展見学、1 月向日市文化資料館での記録映画上映などを企画する。3 月には近代京都シンポジウムを行う。

15. 次年度の経費

		開催回数	延べ人数	支出予定額（円）
国内旅費	一般旅費	12	20	400000
	招へい旅費			
海外旅費	一般旅費			
	招へい旅費			
謝金（講演謝金、研究協力者金、その他の謝金）				
消耗品等経費				
その他				
合計				400000

16. 研究成果公表計画および今後の展開等

共同研究報告書としては、『近代日本の宗教と文化（仮題）』（思文閣出版、2025 年度）および『人文学報』特集号（2025 年度）を準備している。